

私の留学体験記

広島県立西条農業高等学校 2年 金光 諒磨 (かねみつ りょうま)

留学期間 令和5年10月6日 ~ 令和5年10月17日 (12日間)

留学先 ラザロ・スパランツァーニ高校 (モデナ、イタリア)

今回、私がイタリア研修で最初に感じたことは文化の違いです。研修の日が進むにつれて日本では体験しないような事がいろいろとありました。例えば、時間についてです。日本では一般的に「時間を守る」ことをとても意識しているといえます。なぜかという、日本では時間は守るものという風に教育されているからです。決められた時間を守らないことは人を待たせることになり、人との信頼関係がくずれてしまうことになります。しかし、現地では遅刻などが普通にみられました。なぜかという、時間に間に合わせるという行為はあくまで努力目標に過ぎないからです。また、イタリアでは人との会話の時間を大切にし、仕事をするというのではなく一日の楽しみの一環としてという風にみられました。時間をゆったりと使っているように見えました。

二つ目は学習環境についてです。最初に感じたのは、一人ひとりの個性を大切に教育していると感じました。なぜかという、生徒が主体であり先生はあくまでアドバイザーといった感じで、生徒が様々な研究をしたり、時には自由にのんびりしていたりして、とても充実した毎日を送っているように感じました。また、学校の施設設備については、国からの支援で温室、水耕栽培施設など備わって充実しており、そのことにより研究をよりレベルの高いものに行っていることがわかりました。また、生徒同士でのディスカッションによる学習も多いため、コミュニケーションがよく取れていると感じました。さらに、日本とは教育制度が異なっており、特に小学校が5年間しかなく、その分中学と高校での学ぶ期間が増え、深い学びの機会が多くあります。そこが、日本と大きく異なる点だと思います。また、イタリアでは、生徒の服装は基本私服でしたが、実習する際にはきちんと作業着を着ていました。

このイタリア研修で得た様々なことを、今後の英語学習と課題研究に活かしていきたいです。

